

東京牧村会の活動報告

東京牧村会 会長 岡 一二

平成八年秋に設立致しました当会は、
県人会、友好郷人会、Jネット様等のご
支援のお陰をもちまして、今年秋で満
十三年となりました。この間に「ふるさ
と牧村」は市町村合併で「上越市牧区」
となった訳ではありますが、上越市並びに
牧区当局のご支援もあつて、東京牧村会
としての最大の目標である「ふるさとと
の交流」は、年々充実を図つてまいりま
した。機会を頂きましたので、ここに一年
間の活動のあらましを紹介させて頂きま
す。

毎年二月、牧つ子雪祭りに合わせて実
施している『ふるさと訪問旅行』は今年
で三回目ですが今年の参加は四〇名、観
光バス一台の楽しいイベントでありまし
た。深山荘利用一泊二日、三年続きの少
雪でやや自然現象に裏切られましたがふ



るさとの皆さんには大歓迎を頂き、約七
〇名での歓迎の宴を開催して頂きまし
た。

二日目の体育館前での「雪まつり」は
例年通りの雪像造りで汗を流し屋台でふ
るさとの味を堪能して地元の方々のもて
なしに感謝感激でありました。

来年春は五〇名を目標に実施の計画を
先の総会で決議しております。

昨年から実施の棚田オーナーは、初年
度の十六名から今年度は二十二名と増
え、田植え、稲刈りにも大勢が参加しま
した。共に深山荘を利用しての一泊二日
の農業体験、牧農林業振興公社並びに地
元皆さんのご尽力のお陰で歓迎の宴も開
催頂き交流を深めました。参加者には農
業未体験の会員知人も含まれましたが、
その方々からは初体験の感激の言葉が多

く発せられました。またオーナー制度参
加の特典として玄米又は精米の供与を受
けることができましたが「本場のコシヒカ
リ」のおいしさに感嘆の声が上がり、早
くも次年度も継続参加の申し込みも多く
出されました。第三回の平成二十二年度
は三〇名の参加募集の計画で取り組んで
おります。

今年は何程を調整して頂いた関係もあ
つて、ふるさと牧の秋の名物催しで牧振
興会主催の『ふるさと村「頸城平炭火焼
きフェア」』が、稲刈りの翌日開催され
多くの会員が、これにも参加しふるさと
の多数の皆さんと交流、当日は木浦上越
市長、猪俣牧区総合事務所長、武田振興
会長も出席され歓迎頂きました。

文化交流も行われました。

今年八月、当会会員／牧区切光出身の
書家秋山青桃さんの作品展「書の彫刻・
立体書道展」が、牧体育館で開催されま
した。作品はふるさとの大木から切り出
して鑿を使つての立体書道で、その迫力
は見る方に大きな感動を与えるものであ
りました。

県内外から六〇〇人に及ぶ鑑賞者が訪
れ、新潟日報はじめ地元メディアにも大き
く取り上げて頂くなど大盛況の展覧会であ
りました。

秋山青桃さんプロフィール

毎日書道展審査員、日本刻字協会副会
長、新興書道展総務、銀座鳩居堂画廊
などで、毎年個展又はグループ展開催

尚同じく当会会員の書道家・柴田忠文
さんも以前に同体育館で書道展と書道教
室を開催され、ふるさととの文化交流に
貢献されております。

東京牧村会総会も盛況裡に開催。

十月二十四日恒例の東京上野精養軒で
ふるさと及び県人会からの来賓を迎え、
約百名の参加で今年度の総会を開催しま
した。ふるさとは猪俣所長始め要職
の方々のご参加を頂き、牧区特産「どぶ
ろく」で乾杯、雪中梅、ぶなの露、ちま
きで、ふるさとの味を満喫。特産品の即
売もあつて、ふるさととの交流を促進致
しました。

(文責 会長代行 三浦資郎)



岡 一二会長